

教員・研究室紹介



河川工学研究室



学科長 **松本 健作** 教授
Matsumoto Kensaku

■ 学位/博士(工学)(熊本大学)

[研究室キーワード]
水害対策 河川堤防
地下水 河川環境

1998	熊本大学大学院自然科学研究科博士(後期)過程単位取得退学
1998	群馬大学工学部 助手(建設工学科)
2005	群馬大学大学院 助教(社会環境デザイン工学専攻)
2021	静岡理科大学 教授(理工学部土木工学科設置準備室)
2022	現職

静岡県の水害対策を検討し、安全・安心で自然環境とバランスのとれた豊かなまちづくりを目指す



静岡県の河川を対象として、洪水災害のリスクを調べ、危険性の高いエリアに対しては、独自の観測結果の考察や、コンピュータを用いた数値シミュレーション技術を用いてその対策を練ります。河川工学は「現場工学」ですので、研究室から出て実際の河川に出向き、そこで得られる河川やその周辺の自然環境および人々の生活環境の特徴を捉えて対策に活かすことが重要です。「治水はまちづくりの第一歩」として重要ですが、それだけでなく、水辺空間での豊かな自然環境を創生してくれるのも河川です。そのため本研究室では防災のみでなく、自然環境とのバランスのとれたまちづくりを目指します。

地盤防災工学研究室



中澤 博志 教授
Nakazawa Hiroshi

■ 学位/博士(工学)(東京理科大学)

[研究室キーワード]
地盤工学 地盤防災工学
地盤耐震工学 地盤調査法 複合災害

1996	東京理科大学大学院理工学研究科修士課程修了
1996	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
2000	東京理科大学 助手(理工学部土木工学科)
2006	港湾空港技術研究所 特別研究員(地盤・構造部)
2012	復建調査設計株式会社
2015	防災科学技術研究所 室長(先端的施設活用センター)
2018	佐賀大学 客員研究員(理工学部)
2020	高知大学 客員教授(防災推進センター)
2021	静岡理科大学 教授(理工学部土木工学科設置準備室)
2021	防災科学技術研究所 客員研究員(地震減災実験研究部門)
2022	静岡大学 客員教授
2022	現職

地盤災害のメカニズムを解明し、合理的な設計手法の確立や防災減災対策に役立てる



地盤や土構造物は、地震、豪雨、津波により被災しやすいことから、破壊に至るメカニズムに基づく対策が重要です。そこで、地盤調査、要素試験、模型実験、数値解析、あるいは現場実証実験などによって、地盤の液化化や斜面・堤防・盛土などの安定性評価を行い対策工事の提案を行います。また、蛇籠をはじめとする伝統的土木技術の利活用を検討し、防災・減災に役立てる研究をしています。

社会インフラ材料研究室



西田 孝弘 教授
Nishida Takahiro

■ 学位/博士(工学)(東京工業大学)

[研究室キーワード]
社会インフラ材料学 未利用資源
非破壊検査 信頼性維持管理工学

2002	東京工業大学大学院 助手(理工学研究科国際開発工学専攻)
2007	電力中央研究所 主任研究員(地球工学研究所バックエンド研究センター)
2011	港湾空港技術研究所 特別研究員(構造研究領域構造研究チーム)
2011	東京工業大学大学院 非常勤講師(理工学研究科材料工学専攻)
2012	東京工業大学大学院 助教(理工学研究科国際開発工学専攻)
2013	比国デラサール大学 客員研究員
2015	京都大学大学院 特定准教授(工学研究科社会基盤工学専攻)
2019	海上・港湾・航空技術研究所 主任研究員(港湾空港技術研究所構造研究領域材料研究グループ)
2021	鹿児島大学大学院 非常勤講師(理工学研究科海洋土木工学専攻)
2022	現職

調査結果を活用した社会インフラの性能評価および対策選定手法の構築



老朽化した構造物が増える中、現存する社会インフラ構造物を有効に活用することが重要となります。特に、日常的な国民生活および災害時の人命・財産の確保を社会インフラの整備により実現していくためには、充分な要求性能を有していることを評価・確認し、必要に応じて対策を講じることが必要です。この際に必要となる非破壊検査、性能評価、対策などの要素技術やこれらを判断・選定するための維持管理システムを確立しています。

構造デザイン研究室



富永 知徳 教授
Tominaga Tomonori

■ 学位/博士(工学)(東京工業大学)

[研究室キーワード]
構造工学 鋼構造
複合構造 維持管理

1992	京都大学大学院工学研究科 土木工学専攻 修了
1992	新日本製鐵(株)
2004	東京工業大学大学院理工学研究科 土木工学専攻 修了
2008	一般財団法人国土技術研究センター 出向
2010	2010
2012	新日鉄住金株式会社(社名変更)
2019	日本製鉄株式会社(社名変更)
2023	現職

社会インフラ構造物の長寿命化および更新



高度成長期に建設された各種社会インフラ構造物の老朽化が社会的課題となっています。これら老朽化構造物を安全に使い続けたり、工事渋滞などの社会的損失を最小化しながら更新するための技術が必要となっています。具体的には、老朽化構造物の安全性評価手法、AIなどを活用した監視手法、長寿命化のための補修・補強技術、また、短期間での更新を可能とするような新構造などを研究しています。

建設・防災マネジメント研究室



松本 美紀 准教授
Matsumoto Miki

■ 学位/博士(工学)(愛媛大学)

[研究室キーワード]
建設マネジメント 防災まちづくり
土木環境・計画 建設技術評価

2008	愛媛大学大学院理工学研究科 生産環境工学専攻博士後期課程修了
2008	国土交通省国土技術政策総合研究所 任期付研究員
2010	愛媛大学防災情報研究センター 准教授(寄付研究部門)
2012	東邦大学付属東邦中・高等学校 教諭(独)日本学生支援機構 東京日本語教育センター 教諭
2014	宇都宮大学 助教(地域連携教育センター)
2015	宇都宮大学 助教(地域デザイン科学部)
2016	宇都宮大学 助教(地域デザイン科学部)
2018	(一社)地球温暖化防止全国ネット 調査研究職員
2022	現職

防災・気候変動対策に資する土木計画・地域づくりに関する研究



気候変動対策などの国土や社会の動向を踏まえ、社会資本整備事業として地域課題に応じた「まちづくり」が重要とされています。人口減少による都市構造の変化をデータから予測したり、災害の経験を踏まえた防災対策や復興計画を立てたり、既存の事例やデータに加え、地域特性を踏まえた将来予測の条件設定や社会調査データを分析することで、地域にとって最適な「まちづくり」手法を検討します。

海岸工学・再生可能エネルギー研究室



居波 智也 准教授
Inami Tomoya

■ 学位/博士(工学)(東海大学)

[研究室キーワード]
海岸工学 再生可能エネルギー

2008	東海大学大学院海洋学研究所 海洋工学専攻修士課程 修了
2008	株式会社ヒラテ技研 エコエネルギー研究所
2011	東海大学海洋学部 臨時職員
2018	東海大学理学部物理学科 非常勤講師 兼 東海大学海洋学部 臨時職員
2023	現職

海岸工学と再生可能エネルギー(波力・木質バイオマス)



人間と海岸は、様々な形で密接な関わりを持っており、そこから発生する事案に対して、海岸工学の知見や実験的なアプローチから、ひとつずつ丁寧に根気強く取り組みます。また、海岸に押し寄せる波からエネルギーを得る波力発電と、流木や刈草、海岸線に美しく育つクロマツの落ち葉などの未利用資源からエネルギーを作るバイオマス発電の研究を実施しており、循環型社会の構築に向けた取り組みをしています。

モビリティデザイン研究室



鈴木 一史 准教授
Suzuki Kazufumi

■ 学位/博士(工学)(名古屋大学)

[研究室キーワード]
交通工学 交通安全
交通シミュレーション 高度道路交通システム

2008	名古屋大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻博士後期課程単位取得退学
2008	名古屋大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 研究員
2010	国土交通省国土技術政策総合研究所 研究員
2015	群馬工業高等専門学校環境都市工学科 助教
2017	群馬工業高等専門学校環境都市工学科 講師
2019	群馬工業高等専門学校環境都市工学科 准教授
2023	現職

みちづくりから地域における安全・安心・快適な移動をデザインする



私たちの生活に必要な不可欠な人や物の移動の多くは道路が担っています。交通事故や交通渋滞のない安全・安心・快適な移動を実現するため、自動車だけでなく、歩行者や自転車、さらには新たな小型電動モビリティや自動運転車両にも対応した道路空間のあり方について、情報通信技術を活用した調査手法や交通シミュレーション、バーチャルリアリティ(VR)を用いながら研究を進めています。